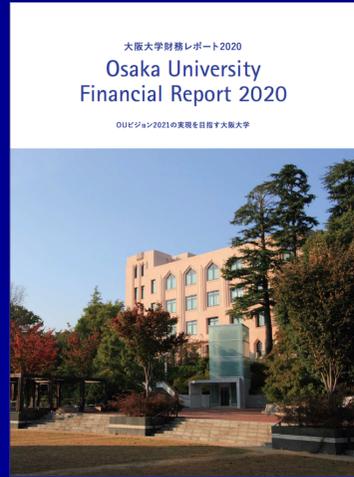


ステークホルダーへの分かりやすい情報発信

■ 財務レポートの充実



- 財務情報と非財務情報を併せて分かりやすく公開!!
- 平成31年度～
 - ▶ ビジュアル面の充実
 - ▶ OUビジョンの実現に向けた投資と成果の対応関係に焦点を当てた説明など、分かりやすく社会のステークホルダー向けに情報発信!!

★ Visual を工夫



OUビジョン2021の実現に向けて
～リソースの活用による目標達成への流れ～

インプット	主な活動	主なアウトプット	主なアウトカム	そのビジョン
教員数 10,407人 ○教員-研究員等 5,285人 ○専任研究員等 3,028人 ○非常勤教員等 1,976人	国際社会大学学部プログラム推進機構 → P14-15 AO・公募入選による学芸大学国際機構 → P16 博士課程学生への経済的支援の充実 → P17	博士課程グローバルプログラム 学芸大学国際機構 AO・公募入選による学芸大学 博士課程学生への経済的支援 博士課程学生への経済的支援	アカデミアのみならず、広く社会と連携する 国際社会大学国際機構の推進 国際社会大学国際機構の推進 国際社会大学国際機構の推進	Open Education
固定資産 3,904億円 ○建物 2,199億円 ○設備 1,062億円 ○土地 242億円 ○図書 22億円 ○その他 181億円	卓越した研究拠点形成 社会科学部研究センター (ELSIセンター) → P18-20 共創機構 「社会と共創を推進する中核組織」 → P22-24 大阪大学ベンチャーキャピタル株式会社 → P25	新たな国際社会学部研究 学芸大学国際機構 国際社会大学国際機構 国際社会大学国際機構 国際社会大学国際機構	教育の質、教育の機会 インターナショナル化推進 国際社会大学国際機構 国際社会大学国際機構 国際社会大学国際機構	Open Research
投資額 1,417億円 ○教育研究費 238億円 ○設備費 209億円 ○研究開発費 227億円 ○人件費 618億円 ○研究費 43億円 ○その他 36億円	国際社会ネットワークの拡充 → P26 留学生を支える多様な環境 グローバルヒルズ構想 → P28-29 ダイバーシティ&インクルージョンの推進 → P30-31 「共創」の実現を支える経済基盤強化 → P32 クラウドファンディングの推進 → P33	国際社会ネットワーク 留学生を支える多様な環境 グローバルヒルズ構想 ダイバーシティ&インクルージョン 「共創」の実現を支える経済基盤強化 クラウドファンディング	国際社会大学国際機構 国際社会大学国際機構 国際社会大学国際機構 国際社会大学国際機構 国際社会大学国際機構	Open Innovation

■ 環境報告書の充実



- 法令義務の環境配慮活動の報告 + SDGsに関連の深い取組を掲載
- 今後のUSR (University Social Responsibility) 報告書等への発展を見据え、従来の環境保全活動の枠を超えた情報を発信!!

目次

- 01 概要とメッセージ
- 02 環境報告書2020の構成について
- 03 目次
- 第1部 キャンパスの環境負荷とその低減に対する取り組み
 - 04 概要
 - 05 大学キャンパスの概要
 - 06 環境方針 / 環境管理方針
 - 07 環境管理の体制
 - 08 マテリアリティ
 - 09 環境負荷の低減
 - 10 温室効果ガス削減取組
 - 11 エネルギーの削減
 - 12 廃棄物の削減
 - 13 水資源の削減
 - 14 化学物質の削減
 - 15 大気汚染防止
 - 16 大阪大学学生生活環境委員会取組の取り組み
 - 17 環境教育の推進
 - 18 グリーン購入・調達 / 大気汚染防止
 - 20 環境負荷の低減
- 第2部 特集：大阪大学の社会貢献と持続可能性
 - 21 教育・研究を通じた社会貢献と持続可能性
 - 22 社会ソリューション・イノベーション (SS) と「いっしょ」の考え
 - 23 SDGsとガバナンス
 - 24 水研 (水研) 研究に繋がること
 - 25 「研究開発・イノベーション」と大阪大学の社会貢献
 - 26 SDGsの「教育」を推進する大阪大学の社会貢献と持続可能性
 - 27 知上の貢献による社会貢献の推進
 - 28 環境教育による社会貢献の推進
 - 29 次世代リーダーの育成
 - 30 トリプル目的のステークホルダー・エンゲージメント
 - 31 ダイバーシティ&インクルージョン
 - 32 国際社会大学国際機構
 - 33 安全で快適なキャンパスづくり
 - 34 サステイナブルなキャンパスの構築
 - 35 サステイナブルなキャンパスの構築
 - 36 環境教育による社会貢献の推進
 - 37 環境教育による社会貢献の推進
 - 38 環境教育による社会貢献の推進
 - 39 環境教育による社会貢献の推進
 - 40 環境教育による社会貢献の推進

SDGs とガバナンス

2015年に国連で「持続可能な開発目標 (SDGs) (Sustainable Development Goals) が採択されたから、早くも5年目を迎えます。SDGsは、持続可能な発展を実現するために必要な目標を定めたもので、2030年までに達成することが求められています。「開発目標」と聞くと、途上国の目標のように思いますが、SDGs先進国を含むあらゆる国の目標です。しかし、17色に光るバグを付けた人は増えても、具体的に何をすれば良いのかわからないという声は少なくありません。

法務学教授 大久保規子

れば良いのでしょうか。例えば、大阪大学のある豊中キャンパス(特養山)は、豊中市の基本的計画で保全配慮地区に指定されています。この周辺には、府の準絶滅危惧種に指定されているヒメボタルが生息しており、大阪大学が、市民の方や市と一緒にその生息環境を保護・整備するということも考えられます。その一環として、今年度からSSI(社会ソリューションイニシアティブ)で大阪大学と地域の共創による生物多様性の保全を、協力プロジェクトとして進めることになりました。

